

# 九条の樹

東久留米「九条の会」ニュース 第23号

2009年9月発行・東久留米「九条の会」

代表者 古田足日・連絡先 鈴木 TEL 042-473-9489

<http://members2.jcom.home.ne.jp/hgsk9jk/>



## 人生の リレーランナーの 一人として

蘭部英夫（前沢2丁目）  
障害者・患者9条の会  
全国障害者問題研究会全国  
事務局長

世界的に著名な精神科医の秋元波留夫さん（当時100歳）は、2006年9月9日、障害者・患者9条の会の結成1周年集会で、20分をこえる気魄の「あいさつ」をしてくださいました。秋元さんのラストメッセージだ。

障害者・患者9条の会のアピールには、「戦争は、いのち、文化、経済を破壊します。その度に、障害者は、社会的に役立

たない、殺潰し”、“非国民”とさげすまれ、差別され、抑圧されてきました。障害発生最大の原因は戦争による暴力です。戦争と障害者のしあわせは絶対に両立しません。障害者は平和でなければ生きられないのです」と記されております。

この立場から私は、障害者・患者9条の会が、わが国を戦争に巻き込むその張本人である日米安全保障条約廃棄と、憲法九条を守る運動を統一的に結合した全国運動に取り組むことを提案して、私の呼びかけ人のあいさつといたします。

全文 <http://www.nginet.or.jp/9jo/2006akimoto.html> )

あれから小泉政権を継承した安倍晋三・靖国神社参拝内閣は、改憲、憲法改悪を急ピッチで推し進め、「国民投票法」を成立させ、教育基本法を改悪した。しかし、「おごれるものは久しからず」。途中での政権投げ出しは次の福田内閣にも続

き、「最後の将軍」麻生内閣は歴史的に大敗北した。平和と人権を守る運動は嵐の中でも前進している。

今年9月5日、「いまこそ！憲法9条・25条の輝きを―障害者・患者は平和の中でこそ生きられる」をテーマに明治大学で開催。1920年生まれの小川政亮先生（権利としての社会保険研究者）が30歳代の障害者たちとシンポジウムした。いのちのバトン、しっかりと受け継ぎます。



◎毎月9日は

『9の日宣伝』

ごいっしょに参加しませんか！

午後4時～5時

東久留米駅西口で

「憲法九条」を「守り」「広げる」  
宣伝をしています。

# Tシャツ100人展

憲法9条を守る何でも展覧会 ピースの木 vol.3



市民がつくる夏の平和行事、  
平和行進、朗読劇、ピースの木  
のTシャツ100人展などが開  
催され、多くの方々が会場に訪  
れました。

東久留米市民がつくる

## 夏の平和行事 2009

### ◆Tシャツ100人展へ ようこそ

「ここに108枚のTシャツ  
があります。」

この言葉から始まるメッセー  
ジを会場に掲げて、8月1日か  
ら5日までの5日間スペース  
105でTシャツ100人展を  
開催しました。

Tシャツを出品してくださっ  
た方は120名以上、見に来て  
下さった方は200名を超え、  
飾られたTシャツは最終日に  
160枚になりました。たくさ  
んの方の応援も得て、100人  
展は無事幕を閉じました。

「二人一人の平和を願う気持  
ちを、Tシャツという身近にあ  
る素材に描いてみよう」と  
という呼びかけは、実行委員の

私達はそれほど難しい事だとは  
思っていませんでしたが、実は  
とても大変らしいということに  
気付き、ワークシヨップや個人  
のお宅で描き方を説明しながら  
いっしょに作っていきました。  
その過程で、Tシャツの一枚一  
枚に込められた皆さんの気持ち  
じかに接することができ、さま  
ざまな想いを聴くことができま  
した。表現方法の多様さにも驚  
かされました。

集まってきたTシャツ達の雄  
弁さは私たちの想像をはるかに  
超え、展示作業は大変でしたが  
とても楽しいものでした。でき  
るだけたくさんTシャツ達と  
おしゃべりが楽しめるよう考え  
たつもりでしたが、いかがだっ  
たでしょうか。

Tシャツを出品してください

た皆様、展示の準備・後片付け  
を手伝ってくださった皆様、見  
に来て下さった皆様、そしてラ  
イアーのミニコンサートを開い  
てくださった炭田さん、素晴ら  
しい展覧会ができました。あり  
がとうございました。

(ピースの木実行委員会)



ライアー奏者の炭田さん  
Tシャツ100人展での  
ライアーミニコンサート

## ◆市民による朗読劇と ライアー ミニコンサート

8月8日(土) 市民プラザ  
ホールで、一人語り役者、館岡  
真弓さん演出の、市民による朗  
読劇『ハテルマ シキナ』がお  
こなわれました。同時に炭田さ  
ん演奏によるライアーミニコン  
サートが開催され、満員の会場  
はライアーのやさしい音色とと  
もに、平和への想いが響きわた  
りました。



## 夏の平和朗読劇を 手掛けて15年

橋岡真弓

今年、朗読を大きく支えてく  
れたのは、やはり子どもたちで  
した。一人は大学受験まっただ  
中。中学生、高校生はそれぞれ  
来年受験生です。そしてもう一  
人は来年成人です。彼らは公演  
終了後、口をそろえて「また、  
来年も参加します！」と嬉しそ  
うに言う。得たものの大きさを  
感じます。

「教育は未来の希望です。自  
由はここ(頭)にある。」アン  
ネの日記の中の父親の言葉で  
す。正しい教育は人間を成長さ  
せます。未来の希望そのものの  
子どもたち、その希望(生命)  
を、自由な心を、失わせてはい  
けないのです。戦争などという  
愚かな行為で!あの時代間違っ  
た教育のもと、多くの生命が失  
われました。戦後、64年間戦争

をしていないこの国は素晴らしい  
のです。世界に誇る「憲法九条」  
が目を光らせているからです。  
未来の希望である子どもたちの  
輝く笑顔に力を得、今日をがん  
ばれる私たちは、「憲法九条」  
のあるこの国に生まれてよかつ  
たと胸張れる子らを、育ててい  
かなければいけませんよね。そ  
のことを強く感じた夏でした。

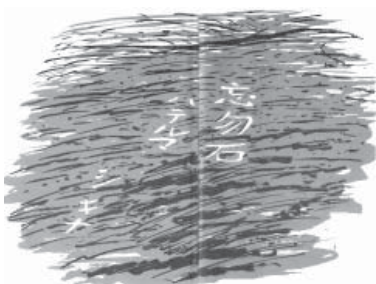
## 朗読劇に参加して

森田悠次

今年一月に高校のHR合宿で  
沖繩に行き、実際に戦場になっ  
た場所を見て戦争のことを知る  
ことができ、その経験を生かし  
たいと、受験生ではあるけれど  
朗読劇に参加しました。今回で  
3回目の参加です。陸軍中野学  
校で国のために死ぬべき軍人と  
して、徹底的に教育され、島民  
に非常な命令下す、冷酷な軍人  
に少しでも近づけるよう頑張り

ましたが、全然想像のつかない  
人物像で、とても難しかったで  
す。

戦争は相手国を滅ぼすための  
ものではなく、自国の国民を守  
るためのものだと思うので(そ  
れでもやらないことが一番いい  
のだけれど)、自国の国民を殺  
してしまった時点でその戦いは  
もう負けだと思えます。このよ  
うな日本の戦い方でもし戦争に  
勝っていたら、現代の日本でも  
同じような悲劇が繰り返されて  
いたかもしれないと思うと、日  
本はもっと早い段階で負けを認  
めるべきだったと思います。



# 東久留米「九条の会」4周年のつどい

講師に九条の会事務局、一橋大学院教授の渡辺治氏をお招きして、「新しい政治状況と憲法」と題してお話しさせていただきます。

東久留米の保育士コーラスグループ「こんぺいとう」の歌で開幕です。皆様お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

日時 10月18日(日)午後1時30分開場 午後2時開演

会場 成美教育文化会館グリーンホール

講師 渡辺 治氏

(九条の会事務局・一橋大学大学院教授)

協力券 500円 高校生以下無料

お問い合わせ・協力券は東久留米「九条の会」事務局  
042(472)9489、または各「九条の会」へ

東久留米「九条の会」4周年のつどい

2009年10月18日(日)  
午後2時 開演(開場1時30分)  
成美教育文化会館グリーンホール  
協力券500円(高校生以下無料)

渡辺 治 講演会  
「九条の会事務局」・一橋大学教授

「新しい政治状況と憲法」

\*オープニング こんぺいとう(歌)

★協力券は各九条の会または下記の会場で承継ください  
成美教育文化会館(山形) 474-564  
ドン・ホーテ(福山) 474-541  
高野アールズ(東条町) 473-486  
うつろみカフェ(大久保) 476-880  
加藤船政工業コアソ(大井) 472-3707

一橋大学九条の会4周年実行委員会  
東久留米「九条の会」(群馬) 472-9489  
東久留米「九条の会」(大宮) 478-8225  
東久留米「九条の会」(大津) 479-9159  
東久留米「九条の会」(大津) 479-7827  
東久留米「九条の会」(高橋) 475-3200  
九条の会たんぽぽ(高橋) 472-2127  
本郷中央九条の会(山形) 476-7845  
小山中央九条の会(群馬) 471-5469  
保野九条の会(福岡) 473-6000  
ネリスト九条の会(福) 473-4496

主催・お問い合わせ  
東久留米「九条の会」事務局(042-472-9489) (群馬)  
eメール: hgs49@kij.com.home.ne.jp  
http://members2.com.home.ne.jp/hgs49/



渡辺 治氏 プロフィール

1947年東京生まれ。東京大学法学部卒業の後、73年より同大学社会科学研究所助手、助教授を経て、1990年より一橋大学教授。専門は、政治学、日本政治史、憲法学。2004年より「九条の会」事務局。著書には『日本国憲法「改正」史』(日本評論社)、『豊かな社会』(日本の構造)(労働旬報社)、『講座現代日本1現代日本の帝国主義化』(大月書店)、『憲法改正の争点』(旬報社)、編著『講座戦争と現代1新しい戦争の時代と日本』(大月書店)、編著『日本の時代史27巻高度成長と企業社会』(吉川弘文館)、『増補版 憲法改正』(旬報社)、『安倍政権論』(旬報社) ほか

## ◆平和を考える本

### 原爆の記

指田吾一・著

指田吾一著「原爆の記」を広める会

(丸木美術館ショップで購入可) 500円

<http://www.aya.or.jp/~marukimn/index.htm>



広島で被爆、そのまま焼け野が原にとどまり、軍医として治療の第一線に立つて奮闘した、前・田無市長指田吾一氏が体験を生々しく書き残したものである。38年ぶりに市民の手で復刊。表紙カバーの絵とカットは、『原爆の凶』の丸木位里・丸木俊画伯夫妻。

治療にあたりながら、戦争について、核について考えたことも書き残している。「もし、戦争を起こしてでも、国を守りたいという人があつたなら、見せてやりたい。あのときも、今もそう考える。」「原爆を日本に落とし、ナバーム弾をベトナムに叩き込み、人間を焼き殺すことが、何のために、だれのために許されるのか。だれが何といつても、絶対に許されるべきものではない。」と。「生き残ったものの責任」として書き残されたこの本は、私たちに戦争の愚かさ、平和の実現に向けて行動することを訴えている。